

大学の設置区分別に身に付いていると見込まれる知識・技能・態度をみると、国立大学で「プレゼンテーション能力」が身に付いているとする割合は他の区分よりも高く、また、「社会人として必要な態度」については身に付いているとする割合が他の区分より低くなっている。一方、公立大学では「専門分野の理論的知識」と「プレゼンテーション能力」が身に付いているとする割合が他の区分と比べて低くなっている。

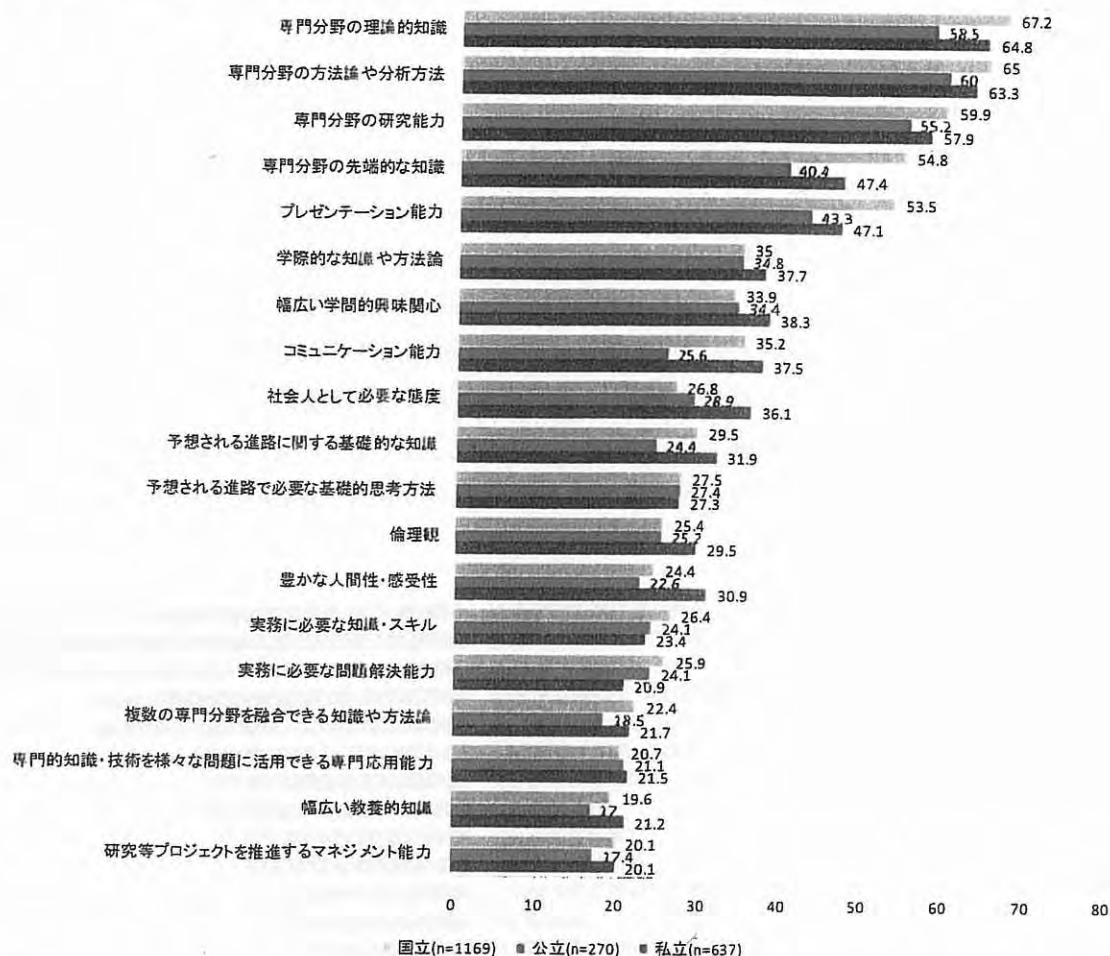


図 I - 21 大学の設置区分別修了時に身に付いていると見込まれる知識・技能・態度(%)

大学院の所在地別に終了時に修了時に身に付いていると見込まれる知識・技能・態度をみると、東北地方で「専門分野の方法論や分析方法」が身に付いているとする割合が他の地域と比べて低く、「実務に必要な問題解決能力」は逆に他の地域と比べて高くなっている。東京都では「専門分野の先端的な知識」が身に付いているとする割合が他の地域よりも高く、中部地方では「予想される進路に関する基礎的な知識」が他の地域よりも低く、近畿地方では「豊かな人間性・感受性」が他の地域よりも高くなっている。さらに四国地方では、「専門分野の研究能力」、「コミュニケーション能力」、「実務に必要な問題解決能力」が身に付いているとする割合が他の地域よりも高くなっている。九州・沖縄地方では「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」と「研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力」において、身に付いているとする割合が他の地域よりも高くなっている。

身に付いていると見込まれる項目について大学院の専攻分野別にみると、社会科学系で「専門分野の理論的知識」、「専門分野の研究能力」、「複数の専門分野を融合できる知識や方法論」などが、また、理学系で「幅広い教養的知識」、工学系で「実務に必要な問題解決能力」、保健系で「実務に必要な知識・スキル」などの項目が、他の専攻分野に比べて回答割合が高くなっていた。

表 I - 9 大学院の所在地別修了時に身に付いていると見込まれる知識・技能・態度(%)

	資格取得に必要な知識	研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力	幅広い教養的知識	専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力	複数の専門分野を融合できる知識や方法論	実務に必要な問題解決能力	実務に必要な知識・スキル	豊かな人間性・感受性	倫理観	予想される進路で必要な基礎的思考方法	予想される進路に関する基礎的な知識	社会人として必要な態度	コミュニケーション能力	幅広い学問的興味関心	学際的な知識や方法論	プレゼンテーション能力	専門分野の先進的な知識	専門分野の研究能力	専門分野の方法論や分析方法	専門分野の理論的知識
北海道(n=98)	7.1	18.3	20.4	14.3	20.4	21.4	23.5	18.4	23.5	24.5	25.5	25.5	31.6	37.8	38.8	52.0	48.0	56.1	61.2	71.4
東北地方(n=155)	11.6	23.2	21.3	21.3	24.5	31.6	25.8	23.9	25.8	27.1	29.7	27.1	33.5	31.0	31.0	52.9	51.0	54.2	55.5	65.5
東京都(n=310)	8.4	17.1	20.6	18.7	23.5	18.1	27.7	23.5	27.7	30.6	33.5	28.7	31.9	35.8	38.7	50.6	57.4	63.9	73.9	69.0
東京都以外の関東地方(n=270)	10.4	20.7	21.9	23.3	21.1	27.8	27.8	27.8	27.8	27.4	32.2	33.7	39.6	35.3	35.9	52.6	53.7	64.1	64.8	67.4
中部地方(n=308)	8.1	18.5	18.2	22.1	19.5	26.6	23.1	22.7	23.1	26.0	24.4	26.3	34.1	36.4	32.1	49.0	47.7	55.8	62.0	61.4
近畿地方(n=509)	9.2	19.4	20.0	18.3	22.4	20.6	28.7	30.1	28.7	28.1	29.7	31.0	33.6	35.4	38.7	47.7	50.5	58.0	64.0	64.0
中国地方(n=141)	6.4	18.4	14.2	22.7	22.0	22.7	24.1	22.7	24.1	22.0	29.1	29.8	30.5	27.7	29.8	48.2	48.2	57.4	60.3	62.4
四国地方(n=43)	4.7	23.3	18.6	23.3	20.9	37.2	20.9	32.6	20.9	27.9	39.5	27.9	51.2	37.2	37.2	55.8	51.2	74.4	65.1	74.4
九州・沖縄地方(n=238)	11.3	25.2	19.7	27.3	20.2	26.9	29.4	29.4	29.0	28.2	28.6	33.6	37.8	37.0	34.5	52.1	45.4	53.4	61.8	63.9

7 身に付けたい能力等と身に付いていると見込まれる能力等

博士課程（後期）での教育研究を通じて身に付けたい知識・技能・態度と、課程修了時には身に付いていると見込まれる知識・技能・態度を比較すると、その差分（身に付けたいとする割合－身に付いていると見込まれる割合）が最も大きいのは、「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」で45.5ポイントの差があった。また、「複数の専門分野を融合できる知識や方法論」が41.9ポイントの差、「研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力」が38.4ポイントの差などがあり、知識の応用や融合、あるいは組織管理の能力については、必要性は認識していても現実には博士課程（後期）の期間中に身に付けることが難しいと考えている様子が見えてくる。

一方、身に付けたい能力として上位に上がっていた「専門分野の理論的知識」や「専門分野の方法論や分析方法」については、見込みとの差分が16ポイント程度で意識のギャップはそれほど大きくはない。

表 I-10 身に付けたい能力等と身に付いていると見込まれる能力等(%)

	(1)身に付けたい能力等	(2)身に付いていると見込まれる能力等	差分
専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力	66.5	21.0	45.5
複数の専門分野を融合できる知識や方法論	63.6	21.7	41.9
研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力	58.1	19.7	38.4
学際的な知識や方法論	66.0	35.8	30.2
幅広い教養的知識	49.5	19.7	29.8
専門分野の先端的な知識	78.6	50.7	27.9
実務に必要な問題解決能力	48.5	24.1	24.4
実務に必要な知識・スキル	46.1	25.2	20.9
専門分野の研究能力	79.4	58.7	20.7
予想される進路に必要な基礎的思考方法	46.4	27.4	19.0
幅広い学問的興味関心	53.1	35.3	17.8
予想される進路に関する基礎的な知識	47.0	29.6	17.4
プレゼンテーション能力	67.4	50.2	17.2
コミュニケーション能力	51.8	34.7	17.1
専門分野の理論的知識	81.9	65.4	16.5
専門分野の方法論や分析方法	80.0	63.8	16.2
豊かな人間性・感受性	38.9	26.2	12.7
資格取得に必要な知識	20.5	9.1	11.4
社会人として必要な態度	39.2	29.9	9.3
倫理観	33.8	26.6	7.2

8 博士課程（後期）修了後に希望する就職先

博士課程（後期）修了後にどのような就職先を希望するかを尋ねたところ、他大学等を希望する回答が46%で最も多かった。第2位は同一大学35%で、大学を就職先に希望する回答が多くを占めた。公的研究機関のほか、民間の企業・法人についても、3割以上が希望すると回答している。一方、自営業や官公庁を希望する回答は少ない。

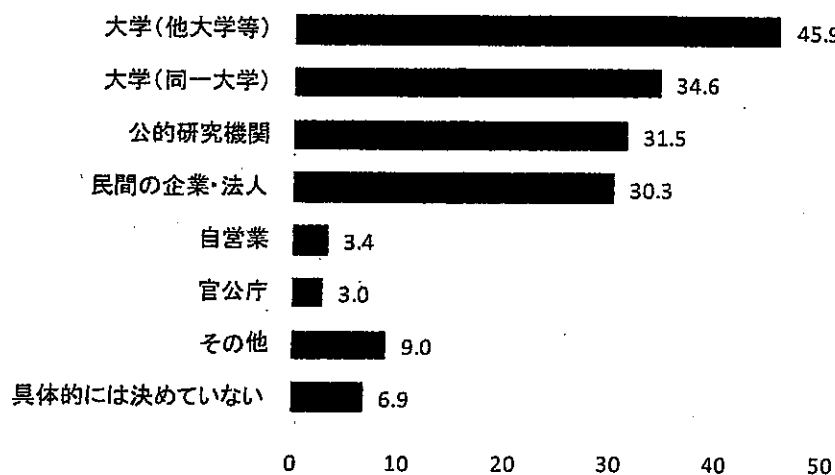


図 I - 22 博士課程（後期）修了後に希望する就職先(n=2076,%)

「その他」についての具体的な内容としては、

- ・ポスドクや留学を含めた海外機関への転出
- ・国連等の国際機関
- ・内外の NPO、NGO
- ・中学校・高等学校

などが比較的多くあがっている。